

松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第6回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第6回〕

2. 開催日時 平成30年2月22日(木) 19時00分から20時10分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階大会議室

4. 出席者

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

福与勉、泉崎明好、伊藤武人、熊谷彰三、鈴木峰好、北林重男、福澤貞和、森谷岩夫、熊谷宗明、寺沢秀文、澤泰一、伊藤政穂、御子柴弘子、保科義浩、宮下智博、名取裕美
(欠席者：松尾貢、橋爪和也、佐藤清、大島慎男、大原昭彦、鋤柄富男)

【JR東海】

中央新幹線建設部名古屋建設部 古谷担当部長

中央新幹線長野工事事務所 平永所長、村井係長、小木曾主席、木村主席

【長野県飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課】

栗林課長、青柳課長補佐

【役場】

深津町長、吉澤副町長、下沢課長、佐々木室長、池田主査、新井主任

塩倉課長、酒井参事、北村課長、田中課長、小沢課長、米山(清)課長、加山局長

5. 議題(公開)

(1) 経過説明と現状の報告

①発生土置き場について

②ガイドウェイヤードについて

③その他

(2) 質疑・応答

6. 非公開の理由(会議を非公開とした場合)

—

7. 傍聴人の数

27人

8. 会議資料の名称

・会議次第・資料(町作成)

9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 会議事項
上記のとおり
- (4) その他
- (5) 閉会

10. 会議録

- (1) あいさつ
(深津町長)

本日は大勢の皆様にご傍聴いただき感謝申し上げます。冒頭に皆様にご話がある。これまで私は3か所の発生土置き場について、生田3区の区長が揃って要望をいただいたという認識でいたが、実際には生東区からいただいたものであること、また、3区の区長たちがお見えになり、JR東海に対し、地元へしっかりした説明を求める文書をいただいた際、3区が認識を共有して提出いただいていたと勘違いをし、今まで公の場でも発言していたが、訂正してお詫び申し上げたい。

発生土問題については、生東地区で3か所の候補地が挙げられているが、まだ決定していないわけである。その中の1か所について、地権者組合ができて話が進んできたが、福与区から2回にわたり反対の要望をいただく中、昨年12月にJR東海が開催を予定していた地元への説明会を、地域住民の理解が得られていないということで、生東区や福与区に出向き、JRにお願いし延期させていただいた。

その後、生田3区で集まっていただき、地区全体としてこの問題をどうしていくか、或いは今まで互いに出していなかった案件等について協議していただくため、町が間に入り、話し合いの場を設けさせていただいた。その中で再スタートをしていくべきと判断したところである。

12月にはJR東海の本部長と飯田下伊那14市町村との対談があり、町の状況を話したところ。町の考えとしては、一貫して安全・安心が担保されること、そして地域にとって活性化につながるメリットが示されなければ承認しがたいという話をしている。また、リスク分散についても検討しており、何箇所か工事関係に利用できるものは利用し、道路改良等含めて考えて参りたい。

- (JR東海 古谷担当部長)

まずは、12月15日発生 of 県道松川インター大鹿線への土砂の流入事象でお詫び申し上げます。2週間の通行止め、通行される皆様、地元の皆様並びに迂回路等になりました、松川町内の県道伊那生田飯田線、松川大鹿線沿線の皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけした。引き続き原因については調査中であるが、崩落箇所が掘削したトンネルの直上であり、発破工事などの振動が原因かと考えている。今後はより慎重に工事を進め再発防止に努めていく。

さて、本日の委員会において当社からの説明事項はないが、生田地区の発生土置き場候補地についての話ということで、候補地として情報提供の時点に立ち戻り、改めて生田地区全体で検討すると聞いている。当社としては、重要な候補地ではあるが、ボタンを掛け違えたまま進めると

いうことは難しいと捉えており、関係者納得のもと、正しい位置に掛け直していただくことは大切だと考えている。また、リニア事業がきっかけで地元の関係が悪化することはあってはならないと考えている。これまで当社からの説明の順序、時期、内容について、いろいろな意見をいただいております、説明の仕方、回答が地元の方の想いにそぐわず、逆に不信感を募ったという意見も聞いています。真摯に受け止め、至らない点は改善し、役場、生田地区の方々と調整の上、話し合いを進めさせていただきたい。

一方、現在規模は小さいが大鹿村内での本置場において、県や大鹿村の協力のもと、道路や環境対策等の公共事業への発生土活用を計画している。これにより、少しでも松川町内に持ち込む土量を減らし、生活環境など負荷軽減に努力して参る。

本事業においては、工事の安全、環境の保全、地域との連携の3本の柱を常に念頭に入れて進めている。地域との連携とは、関係者の方々の意見をよく聞き、地元の想いをよく理解した上で協議していくことであり、こうした委員会を通じ、委員の皆様とコミュニケーションを図っていくことも大切だと捉えている。当社として皆様と良い関係を築けるように努力して参る。

(2) 会議事項

①発生土置き場について（第5回対策委員会以降）

〔佐々木リニア対策室長より経過説明〕

〔補足説明〕

（鈴木峰好委員）

昨年11月7日に、発生土置き場候補地の取り下げを含めた発生土置き場問題を原点に戻って再検討する要望書を町に提出し、同時に生東区に対し、将来を見据えた目的と目標及び手段を明確に表明していただきたいこと、目的としている県道22号線の2車線化が多くの人々が熱望しているものなのか、下流域である福与区が危険や迷惑を我慢してまで共感を得る事業なのか、今一度検討していただい旨の要望書を提出したところである。

これは、平成28年11月に発生土受け入れに反対を表明してから1年が経過した中、生東区からの明確な意思表示はなく、また、JR東海からも不安を払しょくする努力があまり見られず、このままでは県道22号線の測量調査も始まり、発生土置き場の計画図も出来上がってくるなど既成事実が積み重なり、福与区の想いをよそに計画ばかりが進行してしまう懸念から提出した背景がある。

また、昨年12月4日の福与区とJR東海、県、町との意見交換会の中では、JR東海から発生土置き場の決定は、地権者、地元の福与区、町の了解が得られた時点で正式決定となる旨の回答をいただいた。生東区からも12月22日付けで福与区からの要望書に回答いただいた。福与区の心配を確認していただき、対応の不備に対し陳謝の文言もあり、今後は町に要望を出した時点で遡り再検討していただく旨の回答をいただいている。

また、2月26日の第2回生田3区の打合せ会議に向け、2月3日に区の対策委員会において現状確認と今後の方針を話し合っている。取り巻く状況は変わっておらず、発生土受け入れについては反対だが、候補地としての適否を生田3区で検討するとしていることから、今後注視して参りたい。

〔質疑応答〕なし

②ガイドウェイヤードについて

〔田中産業観光課長より経過説明〕

〔質疑応答〕

(森谷岩夫委員長)

上片桐バイパスの方で、県道との接続の要望が出ているようであるが、いかがか。

(長野県 栗林課長)

今すぐできる状況ではないものであるが、発生土運搬道路の構想に入っていることから、どんなことができるか改めて検討している状況である。

(宮下智博委員)

教育委員会で考えていること、道路の面について、上片桐のガイドウェイヤードにおいても、生東区の発生土置き場においても、保育園や小学校付近を通るわけであり、保護者やPTAは心配している。対策委員会を通じて意見を聞いているが、具体的に決まっていな中では、かえって不安を煽る感がある。保護者たちは車両の通行を危惧している。現時点で細い道に無理をして大きな車を通らせるのではなく、予算をつけて迂回ルートをとるように要望を上げさせていただきたい。

③-1 その他（工事関連車両の通行等に係る意見・要望等の集約結果について）

(佐々木リニア対策室長)

町としては、今回いただいた意見・要望を踏まえて今後具体的にになってきた場合には、本対策委員会で協議し、JR 東海や県など関係団体と協定等を結ぶような対応をとっていく予定。

(伊藤政穂委員)

交通安全協会の立場から。公道でここを通るなど言うことはできないが、現在大鹿村では、保育園や学校、介護施設に接するところにプロのガードマンを終日置いて誘導を実施していると聞いている。また迂回路を小渋川沿いに設け地域住民の安全を図る計画も聞いている。松川町でもぜひ検討していただきたい。

(熊谷宗明委員)

発生土が埋め立てに適さない、ヒ素や重金属を含有する土壌の場合の対応についていかがか。

(JR 東海 平永所長)

現在大鹿村の非常口から搬出している土については、ヤードに3日分の土をストックしており、毎日検査機関に提出して自然由来の重金属の基準値を上回るものか検査し、結果を待ってヤード内から搬出している。問題のある土は、要対策土として処置していく必要がある。県や関係機関に報告し、専用の処理場へ送る計画になっている。

(伊藤武人副委員長)

発生土の再利用について検討していることはあるか。

(JR 東海 平永所長)

道路の盛土やコンクリートの骨材への活用など、出てくる岩の状態に応じた対応を検討してい

る。一旦出てくる石は、ある程度大きなものになるため、どのように活用するかは現在検討中である。

③-2 その他（発生土を活用する前河原道路の概略設計について）

（小沢建設課長）

古町の大島建設から古町東部の前河原地籍へ降りていく道路を計画している。道のないところへ盛り土をして道路を作る計画であり、かなりの盛り土が必要であるため、今回リニアで発生する土を活用したいと考えている。机上での必要量が約 10 万 m³。正確な数量を出すため業者に設計委託し、道路の予備設計をしているところ。3 月中におよそ必要な盛り土量を算出する予定。土留めに大きな構造物を造り、リニアの発生土を有効活用することと、大島建設から前河原へ降りる道路の途中で交差点を作り、国道 153 号へ出る道路ということで設計をしている。結果が出たところで JR 東海との交渉材料にしていく予定。

（福与勉委員）

直角に曲がる利用しづらい道路であるので、予備設計の結果を見て、地元としてよい方向にしなければよい。

（泉崎明好委員）

土の搬入について、どのような考え方がるか、設計がはっきりする段階で上新井区に示していただきたい。順路で行けば、上新井区の馬坂地籍を通るのではないかと考える。区でも対策委員会を設けているので、協議していただきたい。

（小沢課長）

予備設計の結果が出た後、JR 東海との交渉を予定している。関係する地主の方々には、測量に入らせていただくと話をしているが、その他古町のすべての方たちにまだ話をしていない。道路を作ることに後、運搬路を選定すると後手になるため、内容が決まってきた段階で同時に動きたいと考える。その際には古町区と上新井区に相談させていただく。

〔全体を通しての質疑応答〕

（寺沢秀文委員）

発生土に関して、地域の想いとして安全安心は何よりも大事であり、そのために十分な判断・配慮をお願いしたい。地元の人たちの意識としては、三六災害のような大きな災害が発生土の処理の仕方によっては出るのではないかという不安がある。リニアそのものの事業は既に始まっており、長野県だけではなく、山梨県早川町など、ほかの地域の状況がどうであるのかということ、ぜひ JR 東海には情報提示していただきたい。JR 東海にとっては費用負担になると思うが、早川町などほかの地域ではどのような発生土処理がされているのか、地元の代表の方だけでも構わないので見せていただき、景観がどのように変化するのか、安全性はどのように確保されているのかなど、地元への理解を得るために検討いただきたい。

また、リニア事業が進んでいく中で、地域にとってリニアがどういう好影響を及ぼすかについては様々な考え方があがるが、地域発展につながるということであるならば、結果としてリニアそのものの、JR 東海にとっても大きなカムバックになるはずである。地元から出てきている要望は、

見返りとしての要望ではなく、そのことによって地域が発展、整備され、暮らしやすいまち、企業誘致ができるまちになれば、リニア利用が促進され、JR 東海にとってもプラスに返ってくる意味を持つものとなる。リニアが都会間の大移動だけではなく、中間駅を含めた地域への利益であるためにも、地域の道路整備、インフラ整備に寄与することは、リニア事業全体への好影響をもたらすという観点から、地域の要望を踏まえた道路整備等についても検討していただければと思う。

（JR 東海 平永所長）

発生土の安全安心については、安全最優先で取り組ませていただく。三六災害から受ける不安については、様々な方々からご意見や資料等を拝見し、理解を深めてきている。先行している地域の現場を見ていただくことについては、今回の提案のほか、地元の方々からも要望を受けているところ。全員とはならないが、代表の方々に現地で発生土置き場が 10 年、20 年経過するとどうなるか見ていただき、少しでも安心していただければと考えている。

地元への貢献の面については、冒頭あいさつで申したとおり、工事の安全、環境保全に加え、地域との連携が重要な柱と捉えている。地域の方々と同じ方向を向き、リニアができて良かったと言っただけのように取り組んでいくところ。工事に全く関係ない点については、ご相談ということになるが、工事を進めていく場面で色々な改善要望が出てくると思うので、1 つ 1 つ対応し進めさせていただきたい。

（名取裕美委員）

発生土運搬車両が通る道や橋の強度は大丈夫なのか。町民が確認できる手段はあるか。松川インター大鹿線が通行止めになった際、県道 22 号線が迂回路になったが、地元の人たちから、幾つかある細い橋について、大型ダンプ等が通る強度はないのではないかと話があったが。

（JR 東海 平永所長）

道路や橋には構造基準があり、どのくらいの車両が通行できるのかそれぞれ定められている。道路管理者と協議して確認の上、運搬ルートを提案させていただく。あるいは、地元から運搬ルートを提案いただいた場合も道路管理者に相談して利用可能か協議していく。また、地元からこの道を通して大丈夫か確認の意向が示されれば、道路管理者と相談の上、対応させていただく。

以上